

(別記)

令和2年度辰野町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

町の面積の約8割が山林という特徴の地形から、農業経営を行なう圃場面積の確保や作業効率の良い形状の圃場の確保が困難である。また農業従事者の高齢化が進んでおり耕作放棄地の増加と担い手の不足が予想される。その対策として、農地の集約を推進し効率的・安定的な農業経営の確立の推進を行なう。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に即応した米づくりを推進するため、生産数量目安値の達成と地域間調整に積極的に取り組み、主食用米の生産を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

輸出用米に関しては近年輸入米の増加や食生活の欧米化により米消費量の減少が進んでいる。国産米の品質と安全性を付加価値として海外の需要へ応えるべく新たな取組の後押しをし、担い手の農地集積や農業経営の安定を図る必要がある。

エ WCS 用稲

需要者は少数だが、飼料自給率の向上、自給的飼料利用による畜産経営の安定排水不良田等水田の有効活用のため取り組んでいく。

オ 加工用米

生産調整を図る転作作物として有効であり、担い手が新たな農地集積・拡大に取り組む意欲に寄与できるため、産地交付金を活用し推進する。また、実需者との結びつきを強化し、需要に応じた生産数量を確保する。

カ 備蓄米

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については国産需要があり、食料自給率向上の観点からも重要な作物である。生産調整を図る転作作物として、また、不作付地の解消においても有効な作物である為、農地中間管理機構や農業委員会を通じて農地の集積を図り、作付け拡大を推奨していく。明渠や暗渠などにより排水対策を講じることで生産性を高めたい。また、飼料作物については飼料価格の高騰等に対応するためには、生産者サイドとして、飼料自給率の向上や家畜の生産性の向上に取り組むことが必要。転作作物の一つとして、家畜飼養規模に見合う牧草の確保を図る。

(4) そば、なたね

そばに関しては、取組地域の環境に適合し生産体制も徐々に整いつつある為、農地中間管理機構や農業委員会を通じて農地の集積を図りより効率的に生産に取り組める様、支援が必要。また、生産調整の面からみても転作作物としては適切である。また周囲の明・暗渠施工等による排水対策に取り組み、品質と収量の向上を図る。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

農業者の所得増大に向け産地交付金を有効に利用しながら、ピーマン、アスパラガス、スイートコーン、スイカ、白ネギ、ブロッコリー、さつまいも、加工用野菜（ジュース用トマト、キャベツ、ぱれいしょ）、柿、ブルーベリー、トルコギキョウ、ユーカリ、えごまを地域振興作物と位置付け、作付けを推進し、生産者の拡大・特色ある産地づくりをすすめる。

(6) 畑地化の推進

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	269.2	284.9	284.9
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米	0	0.4	0.4
WCS用稲	0	2.5	2.5
加工用米	9.6	6.8	7.9
備蓄米			
麦	4.7	4.0	5.0
大豆	0.5	0.6	1.2
飼料作物			
そば	64.6	61.0	68.0
なたね			
輸出用米	0	0.4	0.4
その他地域振興作物	18.4	14.7	19.8
野菜	17.0	13.3	18.0
花き・花木	0.1	0.4	0.4
果樹	1.3	1.0	1.4
.			
.			
.			

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦	担い手への農地利用集積	・実施面積 ・集積拡大	(2018年度) 4.8ha 0.1ha (2019年度) 5.0ha 0.2ha	(2020年度) 5.2ha 0.3ha
2	そば	担い手への農地利用集積	・実施面積 ・集積拡大	(2018年度) 67.7ha 0.8ha (2019年度) 64.6ha 0.4ha	(2020年度) 68.0ha 0.7ha
3	加工用米	担い手への農地利用集積	・実施面積 ・集積率	(2018年度) 9.6ha +12.5% (2019年度) 4.0ha -58%	(2020年度) 9.8ha +68%
4	野菜・花き・花木・果樹	高収益作物への助成①	・実施面積	(2018年度) 2.1ha (2019年度) 4.0ha	(2020年度) 9.7ha
5	野菜・花き・花木・果樹	高収益作物への助成②	・実施面積	(2018年度) 0.1ha (2019年度) 0.4ha	(2020年度) 10.0ha
6	麦・大豆・そば・WCS用 稲	生産性向上の取組 への加算	・麦類の作付面積 ・10a当たり収穫量	(2018年度) 4.8ha 375.5kg (2019年度) 5.0ha 558kg	(2020年度) 5.1ha 581kg
			・大豆の作付面積 ・10a当たり収穫量	(2018年度) 1.0ha 160kg (2019年度) 0.5ha 64.6kg	(2020年度) 1.1ha 147kg

			・そばの作付面積 ・10a 当たり収穫量	(2018 年度) 67.7ha 31.7kg (2019 年度) 64.6ha 89.7kg	(2020 年度) 68.1ha 48.9kg
			・wcs 用稲の作付面積 ・10a 当たり収穫量	(2018 年度) 1.5ha 306kg (2019 年度) 0 0kg	(2020 年度) 1.5ha 306kg
7	そば	そばへの助成 (地域の取組に応じた配分の対象分)	・実施面積	(2018 年度) 67.7ha (2019 年度) 64.6ha	(2020 年度) 68.1ha
8	野菜・花き・花木・果樹・	高収益作物等拡大 加算	・実施面積	(2018 年度) 11.7 ha (2019 年度) 4.0ha	(2020 年度) 17.1ha (2021 年度) 6.0ha
9	【新市場開拓用米】 輸出用米	新市場開拓米への 助成	・実施面積	(2018 年度) (2019 年度)	(2020 年度) 0.4 ha (2022 年度) 1.0 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり